

# 去勢抵抗性前立腺がん (CRPC) とは

県立広島病院 泌尿器科 HP

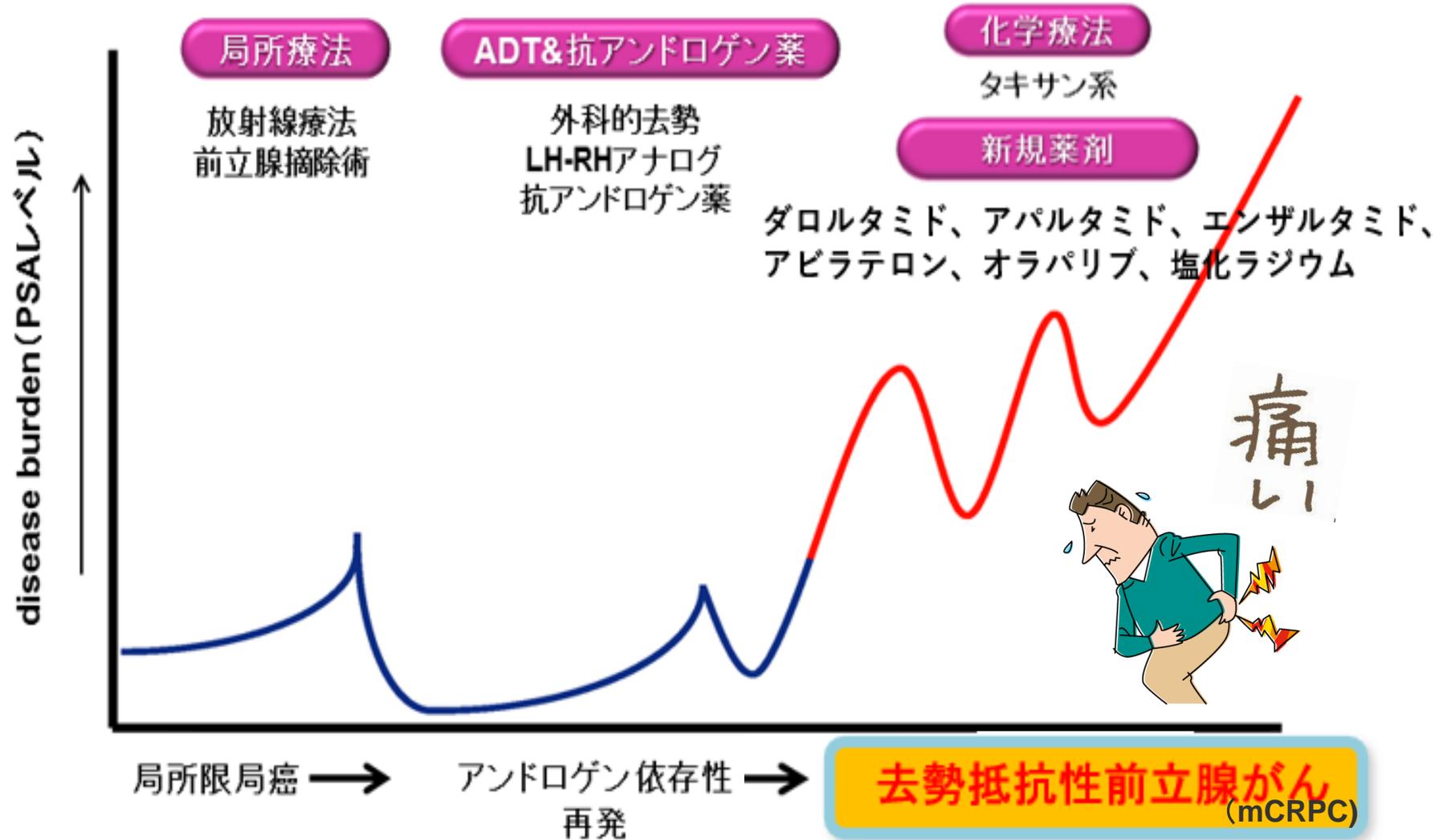
# 去勢抵抗性前立腺がん(CRPC)とは？

前立腺がんは男性ホルモンによって成長するがんです。そのため、男性ホルモンを抑える内分泌療法(ホルモン療法)は治療として有用です。しかし、だんだんと内分泌療法の効き目が悪くなり、内分泌療法を行っているにもかかわらずPSAが上昇したり、がんが成長したり、転移が出現するということが起こります。

このような状態になった場合、「**去勢抵抗性前立腺がん(CRPC)**」といいます(実際には厳密な診断基準があります)。**\*多くは転移を伴っていますが**、PSAの上昇を認めても、画像検査(CT/骨シンチグラフィ/PETCT)で遠隔転移が検出されないこともあり、「**遠隔転移を有しないCRPC**(m0CRPCまたはnmCRPC)」といいます(約34%)。

\* 診断時、60%以上に遠隔転移を伴っています  
Momozono H, et al : Mol Clin Oncol, 2016

# 前立腺癌の経過図

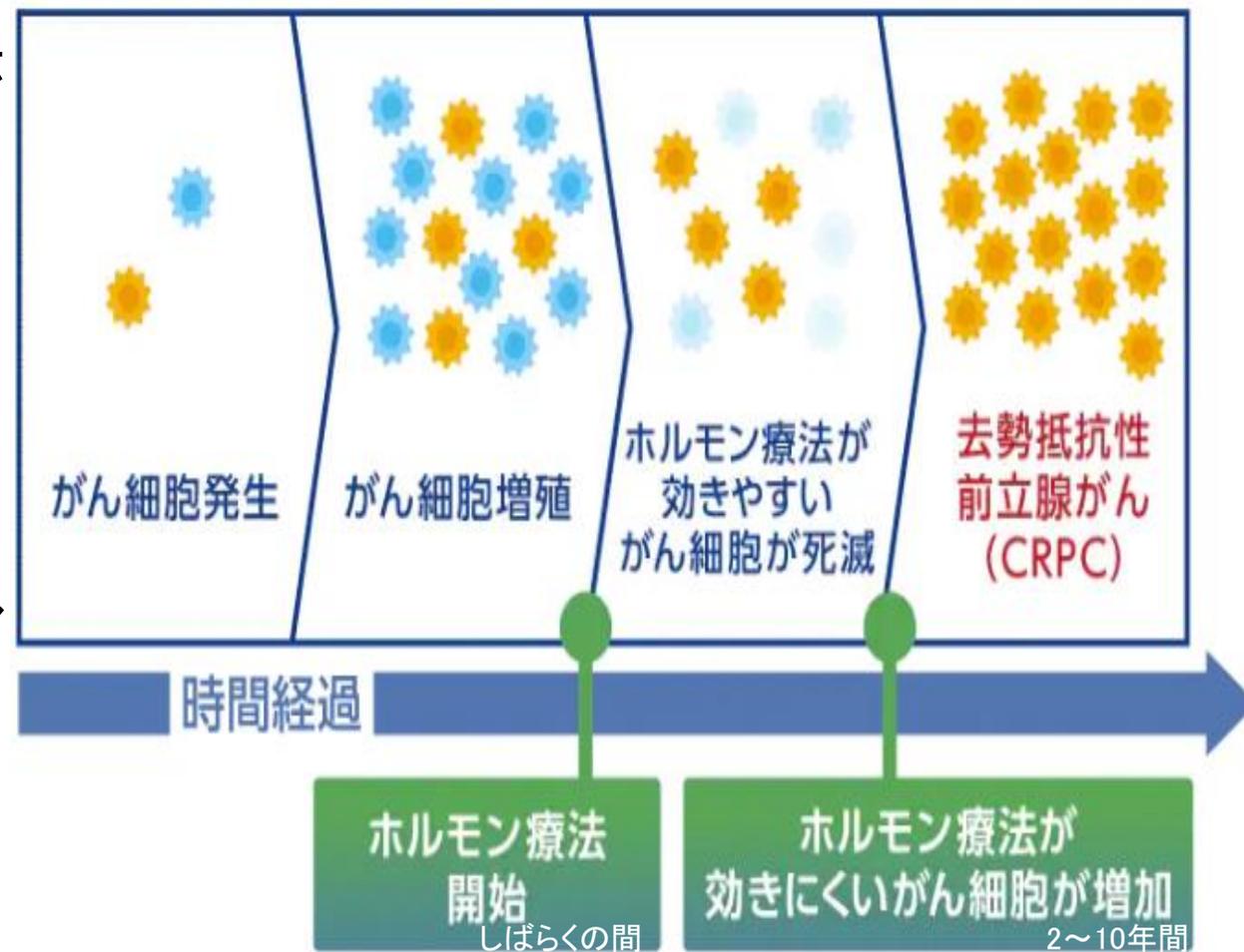


# 去勢抵抗性前立腺がん(CRPC)となる理由は？

- ホルモン療法が効きやすいがん細胞
- ホルモン療法が効きにくいがん細胞

前立腺がんのがん細胞には、内分泌療法が効きやすい細胞●と効きにくい細胞●があり、治療開始しばらくは内分泌療法が効きやすいがん細胞が死滅します。

しかし、効きにくい細胞●は、治療継続中に性質を徐々に変化させて、去勢状態でも生き延びる力を獲得するようになり、かつ、増殖していきます。その結果、CRPCになると考えられています。治療開始からCRPCになるまでの期間は、個人差はありますが**2~10年**とされています。



## 遠隔転移を有するがん(mCRPC)と、 有しないがん(m0CRPC/nmCRPC)の違いは？

遠隔転移を有しない場合、基本的に症状はありません。しかし、転移があれば疼痛、しびれなどにより生活の質(QOL)が低くなったり、それらの治療により医療費負担が増加するなどの問題が生じます。また、診断後1年時の全死亡リスクは、骨転移のない前立腺がんの場合は16% ですが、骨転移を伴う場合は**56%**と高率で、m0CRPC/nmCRPCからmCRPCに進行することで**全死亡リスクが増加**します。

以上から、「**いかにm0CRPCの段階で診断するか**」、「**いかにmCRPCにさせないか**」ということが重要となります。一方で、m0CRPC患者の遠隔転移が出現するまでの期間(MFS; metastasis-free survival)は、本邦では**28ヵ月**と長いため、無症候性の患者さんに効率的、かつ、有害事象なく、長期に治療継続することが求められます。

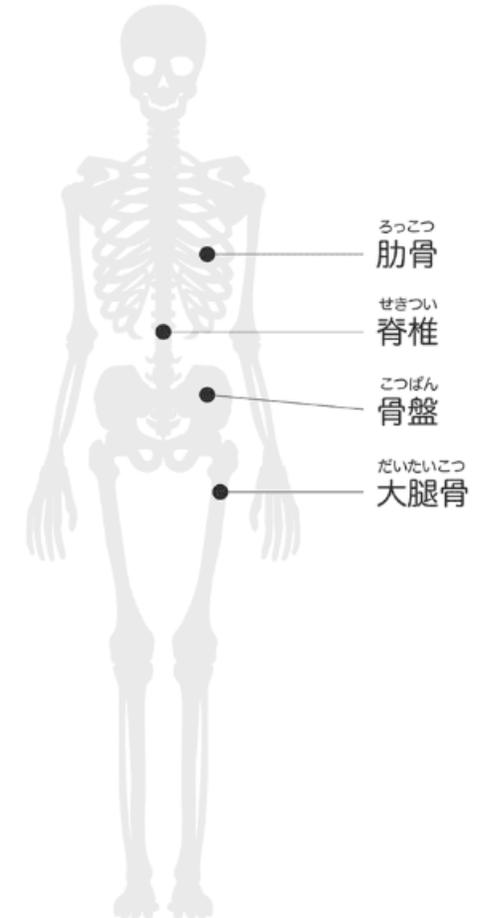
# 遠隔転移を有する前立腺がんの好発部位は？

ステージⅣ

骨転移が起これやすい部位

前立腺がんは、進行すると骨に転移しやすくなります。  
転移が起これやすい部位は、**脊椎、肋骨、骨盤、大腿骨**  
など、体の中心付近にある骨です。

最初のホルモン療法が効かなくなった状態（去勢抵抗性前立腺がん）においては、**80%以上**の高い頻度で骨転移が認められることが知られています。



# 遠隔転移を有する前立腺がんの予後は？

ステージIV

## 前立腺がんの5、10年生存率

		5年相対生存率(%)	10年相対生存率(%)
前立腺	I	100.0	100.0
	II	100.0	100.0
	III	100.0	96.4
	IV	65.9	44.5
	不明	100.0	95.7
	計	100.0	100.0

転移のある場合、予後は不良です。

その中でも、転移が骨転移のみの場合と骨以外にもある場合で、異なります。

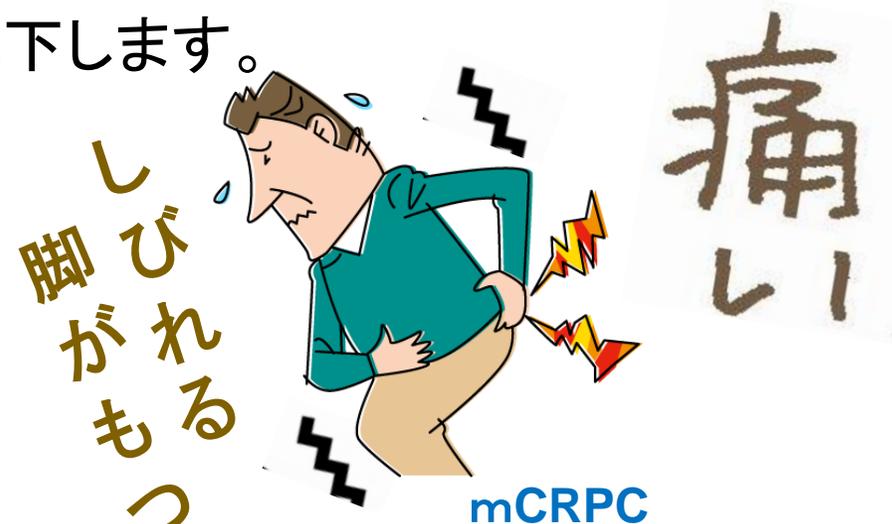
骨転移のみの場合、一般的にはステージIVの中でも比較的余命は長いことが多いと考えられます。一方、肝臓などの内臓や所属リンパ節以外のリンパ節に転移がある場合、ステージIVの中でも余命は短いことが多いと考えられています。

IV期:がんが隣接する臓器に広がり、リンパ節転移や遠隔転移もある

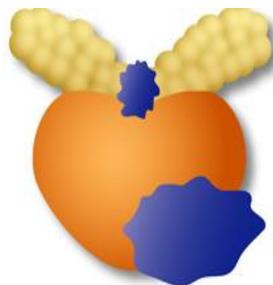
# 去勢抵抗性前立腺がんの症状は？

去勢抵抗性前立腺がんとなると、高率に骨や内臓への転移が出現し、疼痛やしびれ、排尿障害などによる生活の質(QOL)が低下します。

- ・転移(リンパ節・骨など)による疼痛、しびれなど



- ・周囲臓器浸潤がんによる排尿障害



# 遠隔転移を有する去勢抵抗性前立腺がんの予後は？ mCRPC

遠隔臓器を有する去勢抵抗性前立腺がんの生存期間は、概して短いです。

## 全生存期間（中央値）

---

骨転移のある去勢抵抗性前立腺がん；21.3ヵ月  
肝転移のある去勢抵抗性前立腺がん；13.5ヵ月

---

**予後2年未満！**

Halabi S, et al. J Clin Oncol. 34(14): 1652-9, 2016

ここから緩和ケア＝ベストサポーターティブケア（BSC）の3ヵ月を除くと、がんの治療に当てられる期間は**約1.5～1年**と、とても短いことが分かります。

**mCRPCには、より早期からのより積極的な治療・検査が必要です。**

# 去勢抵抗性前立腺がんの治療は？

治療の中心は薬物療法です。新規のホルモン療法(ARAT)や抗がん剤の種類は多く、奏功率は従来の薬剤より高いことは明らかです。しかし、薬の副作用、高額な医療費の問題もあり、患者さんの年齢や合併症、病状、希望する生活スタイル、薬の副作用、医療費など様々な要素を加味した上で、患者さんと相談して治療薬を選択します。

## 去勢抵抗性前立腺がんの治療薬剤

抗がん剤:

○ドセタキセル(製品名:タキソテール)

○カバジタキセル(製品名:ジェブタナ)

抗アンドロゲン薬:  
(ARAT)

○アビラテロン(製品名:ザイティガ)

○エンザルタミド(製品名:イクスタンジ)

○アパルタミド(製品名:アーリーダ)

○ダロルタミド(製品名:ニューベクオ 注: m0CRPCのみ)

放射線治療薬:

○ラジウム223(製品名:ゾーフイゴ)

その他:

○オラパニブ(製品名:リムパーザ 注; BRCA遺伝子変異陽性のみ)

